

第 23 回解剖技術研究・研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班

中谷 宣弘

1. はじめに（目的等）

本会は日本解剖学会学術総会に併行して行われる解剖技術研究会であり、解剖学関係、とりわけ献体を取り扱う技術職員の研修を目的とし、日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等を研究会での発表を通して意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることとしている。ただし今回はコロナ禍の影響により、学術総会とは別日程で単独のリモート開催として行われた。

2. 期間・場所

期間：2022年3月23日（水）

場所：リモート（Zoom）開催

3. 参加者等

各大学の解剖学技術系職員 約 50 名

4. 研修内容

今回の研修会では、解剖教育功労賞受賞者による講演と本会に先立って行われたアンケート結果の報告、全体討論が行われた。全体討論はコロナ禍による献体者数・業務への影響、献体事務の所属（大学事務方 or 解剖学講座内 or 外部委託）について、献体を用いた手術手技訓練の進捗状況の3題を議題として行われた。

5. まとめと感想

報告者は同業の技術職員がほとんどなのでどの話題も非常に参考になったが、とりわけ献体事務の所属による違いの話題に興味をひかれた。本学では献体事務の一斉を大学事務が担っており、技術職員の負担は無いため、業務的にはかなり楽な部類に入っているが、反面、献体登録者やそのご家族と接する機会がないため、ご献体への感謝の意識が希薄になりがちである。日々献体活動に接する技術職員の話には苦労も多いが、有用な話題や工夫も多くあり非常に参考になった。また今回、リモート開催とする事により普段の現地開催では業務の都合でほとんど参加できない大学からの参加もあり盛況であったが、反面、現地開催で得られる解剖施設や手技の見学による知見が得られなかったため、その面で少し消化不良でもあった。次回は現地で会いましょうの声とともに閉会となった。